

## 「中国・アジア」ダイジェスト

2014.03.31-04.04

\*記事は東京発行・最終版

クマクラのガラススクライバーを熱心に見つめる郭台強 T E E M A  
会長(中央=3月31日付)

4月1日(火)

パンドー化学、上海に新会社  
搬送用ベルト/納期を短縮  
パンドー化学は、中国の全額出資子会社が上海市浦東地区に新会社を6月に設立する。保税区外で搬送用ベルトを加工して納期を短縮し、中国での搬送ベルトの拡販を目指す。(7面)

4月2日(水)

上海汽車、初の500万台突破  
2013年新車販売/13.7%増  
上海汽車集団は、2013年の合弁会社も含めた新車販売は13.7%増の510万台6000台。初めて500万台を突破した。内訳は乗用車が20.1%増396万台、商用車が3.9%減114万台5000台。(時事=5面)

4月3日(木)

三洋電機、液晶テレビ工場売却  
中国TCLに15億円  
パナソニック子会社・三洋電機は、メキシコの液晶テレビ工場を中国家電大手

## CHINA

3月31日(月)

台湾の電機関連業界団体が訪問  
クマクラを見学

台湾の電機関連業界団体TEEMAの会員50人が来日、28日にクマクラを訪問した。郭台強会長はガラスを超音波での切断を見ながら「45度の角度で刃を入れられるのか」と熱心に質問。(35面)

4月1日(火)

いすゞ、タイに開発拠点  
新興国向けトラック  
いすゞ自動車は、タイに新興国向けトラックの開発統括会社を設立する。日本で開発していたが、市場の近くで開発する。3年後をめどに200人体制に。2016年にも第1弾の車両を投入。(5面)

三菱自、フォード工場買収  
フィリピン/年産5万台体制

三菱自動車は、フィリピンの米フォードモーターの工場跡地を買収し、フィリピンでの年産能力を現在の3万台から5万台にする。買収する工場に既存の自社工場を移転する。(5面)

村田機械、タイ現法に営業部門  
物流・搬送機器

村田機械は、タイ現地法人に物流、搬送機器の営業部門を設置する。タイがア

## 100年経営の会

随時会員企業  
募集中  
(入会資格は、創業60年以上)

100年経営の会

「閉塞感を開拓する原動力に」



日本には創業100年以上の企業が2万社以上あります。

こうした長寿企業の多くは持続的な成長を目指す独自の経営理念を持ち、顧客や従業員、地域社会との結びつきを大切にしています。日刊工業新聞社は2011年に長寿企業に学ぶ「100年経営の会」を立ち上げました。本会の趣旨は多くの危機を乗り越えてきた経営を長寿経営として理論化し情報発信することです。

会員企業の歴史から長年培われた日本型経営の優れた点を探っております。

わが国の産業界は、多くの天災に見舞われながらこれを乗り越えて発展を続け、また敗戦に伴う壊滅的な打撃や二度の石油危機の被害などを克服して不死鳥のごとく蘇ってきました。20世紀後半から奇跡の復興を遂げ、世界第2位の経済大国になるなど、アジアの新興国のモデルとなる経済成長を実現してきました。その主たる原動力となったのは、幾多の試練を乗り越えてきた創業100年を超える長寿企業であり、その経営手法を手本とした新興企業であります。

日本企業の多くに共通する「長期的な企業の存続を重視する経営」は、世界に誇れる企業価値であると考えます。わが国には、創業100年以上の長寿企業が世界の半数を超える2万5000社以上あるうえ、創業60年を超える企業は枚挙にいとまありません。これらの企業にはいくつかの共通点があります。長期的な経営視点を持ち、時代環境を読み取り不斷の革新を繰り返してきたこと、短期的な利益の極大化よりも長期的な利益の増大を重視すること、何よりも顧客を大事にし、商品のブランドや企業のアイデンティティを重視すること、従業員を大切な資産だと考え長期雇用を基本とすること、株主はもとより顧客、従業員、地域社会などのステークホルダーにもバランスよく配慮することなどあります。これらは、「日本の経営」と称されることも多いのですが、欧米、アジアの優良企業・長寿企業にも共通するものです。

今こそ私たちは、こうした原点に立ち返り、日本の産業を復活させ、先達が築いてきた経営のあり方を次の世代にも引き継いでいかなければなりません。また、その経営手法は世界に広げていく価値のあるものだと考えます。

そこで、長期的な企業の存続を重視する企業で結成する「100年経営の会」を発足させることいたしました。長期持続経営を新たな企業価値として体系化し、国内外に発信することを目的としております。また、長期持続経営を実践し、またそれを目指す企業の交流の場としてさらなる経営強化を図り、ひいては日本経済の閉塞感を打開する原動力にできればと考えております。

100年経営の会 会長  
(元経済産業省事務次官)

北畠 隆生

歯車の調達先をグループ内に切り替える江蘇納博特斯克液圧  
(ナブテスコ)

もSUVの販売が好調だった。トヨタ自動車は3月単月で最高更新。(6面)

富士重、中国販売が最高更新  
2013年度/38.1%増、6万台

富士重工業は、2013年度のスバル車の販売が米国、カナダ、中国の3ヵ国で過去最高になった。中国は前年度比38.1%増の6万台で、3年ぶりに過去最高を更新した。(6面)

環境企業の中国進出を支援  
省エネ提案/近畿経産局

近畿経済産業局は、関西地盤の企業による佛山市南海区への進出を支援する。電気使用量の多い現地アルミ工場の中からモデル工場を選定、環境・省エネのトータルシステムを提案。(27面)

自動車メーカーの中国新車販売  
3月

	3月
日 産	115,900(26.0)
ト ヨ タ	90,400(19.0)
ホ ン ダ	59,921(+2.0)
マ ツ ダ	17,387(10.5)
富 し 重	6,302(57.4)

単位台、カッコ内は前年同月  
比増減率%、▲はマイナス

中国佛山市内のアルミ工場

次回は-

14日(月)は新聞休刊日ですので、「中国・アジアダイジェスト」面の次回は21日(月)に掲載します。

ひと

楽観論をいさめる

世界の鉄鋼市場で供給過剰が問題に。中国政府も生産能力の削減に腰を上げたが「マクロで言っていることと足元で起きていることが連動していない」と、日本鉄鋼連盟会長の友野宏さん。「短期間で物事が進むとは考えない方がいい」と楽観論をいさめる。(1日=13面)

持続的な関係を求めるように

「日本の中小企業と中国の架け橋になる」と意気込むのは、フォレストリ社長の森はるかさん。4月に中国政府などが開く国際展示会の出展業務を受託しており、準備に余念がない。「中国企業も持続的な関係を求めるようになってきた」と意識が変化。(4日=25面)

気機器、電子部品関連メーカーに同国接続端子部品を調査する。(8面)

パトライト、台湾に販社

回転表示灯/現地仕様  
パトライトは、台湾で中旬に現地販社を設立し、産業用途の回転表示灯などを拡販する。現地市場に応じた製品を年間10点程度投入し、現地代理店12社を通じて販売する。(9面)

即席めんで新会社

東洋水産・味の素/インドなど  
キッズコープ/事業所内に設置  
キッズコープレーションは、保育施設の企画、運営事業で海外進出する。年内にミャンマーのインターナショナルスクール事業者と業務提携し、現地の財閥系企業などの事業所内に託児所。(25面)

行う。(10面)

印ベンガルールに支店

三菱東京UFJ銀行/IT集積地  
三菱東京UFJ銀行は、インド南部のベンガルールにベンガルール支店を開設した。インド5拠点目の支店。IT産業の大集積地・ベンガルールに進出の日系(17面)

ミャンマーで保育園

キッズコープ/事業所内に設置  
キッズコープレーションは、保育施設の企画、運営事業で海外進出する。年内にミャンマーのインターナショナルスクール事業者と業務提携し、現地の財閥系企業などの事業所内に託児所。(25面)



キッズコープが運営する病院内保育所

羽田の国際線、5割増便

中国・韓国便など/1日約80便  
羽田空港の国際線発着枠が30日、大幅に拡大された。中国や韓国などの近距離路線に加え、欧州路線も昼間に発着。羽田の国際線は5割増の1日あたり約80便となる。(時事=30日配信)

ミャンマーで31年ぶり国勢調査

人口5000万・6000万人  
135の民族が暮らすとされるミャンマーで30日、国勢調査が始まった。31年ぶり。人口は5000万・6000万人とされています。長年の内戦で調査が実施されていなかった。(時事=30日配信)

TELOP

羽田の国際線、5割増便  
中国・韓国便など/1日約80便  
羽田空港の国際線発着枠が30日、大幅に拡大された。中国や韓国などの近距離路線に加え、欧州路線も昼間に発着。羽田の国際線は5割増の1日あたり約80便となる。(時事=30日配信)

## 活動内容

## 「長寿経営の価値の普及活動」

## ■ 勉強会の定期開催

「長寿経営」の理論化を目指し、アカデミズムとも連携しながら勉強会を月に1回程度開催していきます。長寿経営企業の経営者を招き、創業の精神(経営理念や哲學)、環境変化に対応するための変化(事業転換や技術革新、本業と新規事業の関係性)、リスクマネジメント、ブランド力、事業承継、地域社会との関わりなど、さまざまな角度から分析し、知的資産経営をベースに体系化し、経営論の構築を目指します。一定の調査内容がまとまりた段階で、日刊工業新聞紙上で研究成果を報道します。

## ■ 長寿経営の価値の普及活動

シンポジウムの開催  
大型シンポジウムを計画するほか、地方都市でも地元自治体や団体などと協働し、地域密着型のシンポジウムを開催します。100年以上持続发展してきたような長寿経営企業から、創業の精神や理念の持続をはじめ、危機克服の経験、環境変化に対するイノベーションなどを学び合い、知的資産経営論をベースに長寿経営の魅力を広く国内外に発信します。

## 情報発信事業

ホームページの運営で国内外へ長寿経営の価値を情報発信します。映像化などにも取り組み、ウェブなどで情報運用を展開します。また、日刊工業新聞など日刊工業新聞社が有する各種媒体と連動した情報発信も積極的に行います。

## ■ 長寿経営企業の顕彰事業

創業100年を迎えた企業の顕彰制度創設に取り組みます。2013年度は制度の設計など具体的な準備などを進め、早期実施を目指します。

## ■ 海外の長寿企業や団体などの連携

海外の長寿企業の経営を調査、分析するほか、類似の団体との連携関係の構築を進めます。

## 「100年経営の会」に関するお問い合わせ・お申し込み先

日刊工業新聞社 100年経営の会事務局 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (日刊工業新聞社内)

TEL 03-5644-7608 FAX 03-5644-7209 100年経営の会 検索